

公立大学法人島根県立大学の平成24年度に係る業務実績に関する評価のポイント

1. 5段階評価を行う項目

(1) 特に顕著な成果が見られた事項…「評点5」の項目

項 目	概 要
① 浜田キャンパスにおける受託・共同研究の受入れ体制の整備 (No. 157-2)	規程を整備したうえで、外部公表を実施した。
② 学外者からの大学施設使用料確保 (No. 159-1)	施設概要をホームページに掲載するとともに、バナーをトップページに配置したところ、浜田キャンパスにおいては対前年度比174%の収入があった。
③ 出雲キャンパスにおける幅広く県民等からの意見を聴く機会の設定 (No. 176)	キャンパスモニター会議を3回、タウンミーティングを2回実施した。タウンミーティングでは、隠岐島前高校からの入学者の獲得や出された意見が「出雲キャンパスのあり方検討会」に利用されるなどの成果があった。

(2) 平成23年度実績に係る今後の取組が期待される事項

評点3以下の項目（意図した実績が達成されなかった事項）

項 目	概 要
① 新たな寄附金制度の積極的広報及び募集 (No. 160)	「島根県立大学未来ゆめ基金」を設置して寄付金の募集を開始した。関連団体への訪問・周知依頼、大学ホームページ及び浜田市広報誌による周知、同窓会等へのパンフレット送付、キャンパス窓口におけるパンフレット配置等により広報に努めた。
② エコキャンパス実行計画」に基づくエコキャンパス活動の推進及び改善 (No. 165)	空調機を高効率タイプに更新するなどの対策を実施し、全体的には一定の成果を上げている。ただし、コピー使用量の削減目標をわずかに達成することができなかった。
③ 情報セキュリティポリシーに定められた情報格付けに基づいた運用の実施 (No. 181-1)	現在の情報セキュリティポリシーの再検討を行い、25年度中に各キャンパス教職員により見直しを実施することとした。

(3) 平成24年度の「今後の取組みが期待される事項」の取組状況
 評点3以下

項 目	取 組 状 況
① 情報セキュリティポリシー及び情報格付けに基づく文書管理 (No. 181-1)	現在の情報セキュリティポリシーの再検討を行い、25年度中に各キャンパス教職員により見直しを実施することとした。
② セキュリティポリシー講習 (No. 181-2)	松江キャンパス学生分は実施できなかった。新入職員分は実施できたが、その他の職員分は実施できなかった。

(4) 法人自己評価を変更した項目とその理由

項 目	概 要
① 各種システムの更新や改修 (No. 140) (評点：法人5→事務局4)	法人職員が独自にシステムを整備したとのことであったが、コストの削減につながるなどの効果まではみられない。
② NEARセンターはセンター研究員の同意を得て、科研費計画調書を採否にかかわらず収集し、学内閲覧を可能にするための方策を検討する。(No. 108-4) (評点：法人5→事務局4)	収集した結果を閲覧しているので、計画に沿った実績と判断される。
③ NEARセンターはセンター研究員の同意を得て、研究助成財団に提出した申請書を採否にかかわらず収集し、学内閲覧を可能にするための方策を検討する。(No. 108-5) (評点：法人5→事務局4)	収集した結果を閲覧しているので、計画に沿った実績と判断される。
④ 「エコキャンパス実行計画」に基づくエコキャンパス活動の推進及び改善(No. 165) (評点：法人3→事務局4)	空調機を高効率タイプに更新するなどの対策を実施するなどし、全体的には一定の成果を上げている。ただし、コピー使用量の削減目標をわずかに達成することができなかった。

(5) 中期目標各項目別の平均値

<中期目標各項目別の状況>…年度計画各項目を5段階で評定し、その平均値で評価

中期目標の大項目	評点平均値				評 定
	大学		事務局		
①新たな大学構想の確立と実現に向けた取組	4.00	A	4.00	A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。
②自主的、自律的な組織・運営体制の確立	4.10	A	4.05	A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。
③評価制度の構築及び情報公開の推進	4.09	A	4.09	A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。
④その他業務運営に関する重要項目	3.95	A	3.95	A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。

2. 5段階評価を行わず特筆すべき点又は遅れている点を示す項目

大学の教育研究等の質の向上に対する評価の概要

大学の3つの基本的な目標（①学ぶ意欲を大切にし、高めていく大学、②地域に根ざし、地域に貢献する大学、③北東アジアの知的共同体の拠点として世界と地域をつなぐ大学）について評価を実施

□特筆すべき点（注目される点）

項 目	計画の進捗状況及び成果
学ぶ意欲を大切にし、高めていく大学	<p>（入学者確保・志願者対策）</p> <p>◇松江キャンパスの紹介用プロモーションビデオを作成し、ホームページに掲載すると共に、今年度作成したパワーポイントによる説明と併せ、大学見学会等において活用した。ミニオープンキャンパスでは、前年度比127%となる153名の参加があった。(No.2-4)</p> <p>◇浜田キャンパスにおいて、平成27年度入学者選抜試験について、入試制度検討委員会の開催により、選抜方法の見直しを行うこととした。(No.4)</p> <p>◇出雲キャンパスにおいて、推薦入試に大学入試センター試験（3教科3科目）を導入し、一般入試を4教科4科目から5教科5科目に変更し、学習意欲の高い受験生の確保に努めた。(No.4)</p> <p>（進学・就職）</p> <p>◇浜田キャンパスで活用している就職活動記録システムを、支援体制が類似する松江キャンパスにも導入し、情報共有の効率化を図った。(80-1)</p> <p>◇短期大学の進路セミナーでは、看護学科2年次生に【キャリアプラン対策講座】、看護学科3年次生と専攻科の学生を対象に【エントリーシート対策講座】【小論文対策講座】【面接対策講座】を開催した。</p> <p>看護学部看護学科では、1年次生に【キャリアデザイン講座】の進路セミナーを開催した。(No.80-4)</p> <p>◇都市部で就職活動を行う学生が安価に宿泊施設を長期確保できるよう、ウィークリーマンション事業者を招き利用説明会を行った。学生が特別割引価格で宿泊できるよう交渉し、学生証の提示または専用サイトからの申込により割引価格が適用されることとなった。説明会には20名の学生が参加し、11名の学生が申し込みをした。(No.85-1)</p>

	<p>◇キャリア担当教職員とキャリアアドバイザーの計6名が、合同企業説明会、商工団体や行政組織主催の企業集合イベント等にも可能な限り参加し、延べ3500名と接点を持った。また、新規開拓した企業のうち、7社から内定を得ることができた。(No.85-2)</p> <p>(留学)</p> <p>◇浜田キャンパスにおいて、昨年度からリサーチツアーの機会を活かして延辺大学との交流を深めてきた結果、今年度は3名が大学院を受験し、合格した。(No.119-1)</p> <p>◇浜田キャンパスにおいて、今年度から、キャリア体験科目「企業体験実習」の内容を「海外企業研修」とするとともに、対象年次を1～3年生とし、幅広い学生の参加を促した結果、インドコース20名、韓国コース19名、合計38名の参加があった。(No.122)</p> <p>◇松江キャンパスにおいて、「海外企業研修」事業（インドコース・韓国コース）の参加募集を行い、7名の申し込みがあった。(No.122)</p> <p>(教育・研究)</p> <p>◇NEARセンターは、センター研究員の同意を得て、科研費計画調書を採否にかかわらず収集し、学内閲覧を可能にした。(No.108-4)</p>
<p>地域に根ざし、地域に貢献する大学</p>	<p>◇浜田キャンパスにおいて、ボランティア活動前に大学負担によるボランティア保険に加入することで活動リスクの軽減が図られたため、気軽に学生ボランティア活動に参加することが可能になった。(No.109-3)</p> <p>◇松江キャンパスにおいて、「椿の道アカデミー」20周年記念講座として、3講座を実施し、公開講座の充実に積極的に取り組んだ。通常の公開講座、20周年記念講座、客員教授講座等を合計すると、延べ参加者数は約2800名となり、昨年より大幅に増加した。(No.110-8)</p> <p>◇浜田キャンパスにおいて、NPO法人結まーるプラス、NPO法人てごねっと石見等の活動に、学生も含め参加し協力関係を促進した。(No.113-2)</p> <p>◇出雲キャンパスにおいて、ボランティア保険とボランティアマイレージ制度の普及・啓発を兼ねて5月26日にボランティア研修会を実施する等により、目標としていた150名を上回る152名の登録者数となった。(No.113-4)</p> <p>◇浜田キャンパスにおいては、浜田市、江津市、益田市からの委託を受けて受託・共同研究等を実施した。島根県とのさらなる連携について調整を始めた。(No.114-2)</p>
<p>北東アジアの知的共同体の拠点として世界と地域をつなぐ大学</p>	<p>◇北東アジア研究会は7回、日韓・日朝交流史研究会は4回開催した。研究会は他の研究会との連携・交流を図り、毎回の内容が充実し、開催回数も予定より上回った。(No.90-1)</p> <p>◇ニューズレター『NEAR News』の誌面と内容を変更したため、研究員の活動を以前にも増して多く紹介することができるようになった。(No.98-4)</p> <p>◇カザン大学准教授ウスマノヴァ・ラリス氏が5月に来学し、服部四郎をテーマにした学術交流を進めることとなった。センターの研究交流の外国側窓口としてプログラムで養成した研究者のネットワークが有効に機能することがわかった。(No.104)</p>

□ 昨年の指摘事項について

項 目	取 組 状 況
<p>東京・大阪で就職活動をする学生の支援体制ができ、また都内に安価で確保したレンタルスペースの利用価値が認められたが、サテライトキャンパスのあり方について具体的検討が行われなかったため、検討を開始するとともに、方針を定められたい。(No. 85-3)</p>	<p>固定的な拠点は設けずに以下の対応とすることを方針決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 都市圏で活動する学生の状況把握 ② 2～5月頃、学生をよく知る教職員が交代で都市圏に行く。 ③ 学生と連絡をとりながら、その都度適切な場所を確保して指導・助言を行う。 ④ 都市部の同窓会組織と連携し、激励会を行う。 <p>(評点対象外)</p>
<p>北東アジア超域研究の成果について、原稿集約・出版に至らなかったため、原稿集約及び経費調達等、平成24年度内の出版・刊行に向け作業を着実に進められたい。(No.90-2)</p>	<p>超域研究の成果について、日中韓シンポにて発表を行い、これに基づく論文を『北東アジア研究』に掲載して公表した。書籍の刊行については、『北東アジア学創成シリーズ』に成果を反映させることとする。</p> <p>(評点対象外)</p>
<p>ロシア海洋国立大学との共同研究のテーマについて方向性は定まったが、研究に向かっての具体的な進展がなかったため、意見交換を引き続き実施し、共同研究の準備を進められたい。(No. 119-4)</p>	<p>海洋大学側の共同研究参加者の所属変更等のため、共同研究テーマおよびメンバー変更を余儀なくされた。検討の結果、現在のメンバーでは共同研究の継続は難しいと判断し、実施を休止した。</p> <p>(評点対象外)</p>